

令和2年度練馬区立大泉第六小学校評価報告書

練馬区立大泉第六小学校
校長 西野 國子

1. 自己評価結果

(1) 概要

それぞれの項目をA「そう思う」 B「だいたいそう思う」 C「あまりそう思わない」 D「そう思わない」で聞き、割合を算出した。下線が昨年から数値が増加した項目であり、保護者評価はすべての項目において昨年度から増加し、肯定的回答が9割を超えた。児童アンケートからは、2、3、5、8、10を「改善を要する」と捉えた。

(保護者回収率 75% 児童回答数 452人 地域回答数 4)

(2) 根拠となる資料

評価項目 (括弧内は保護者への質問事項)	保護者 地域	児童	教職員
1. 学校は楽しいですか。 (学校は教職員が協力して教育活動にあっている。)	92	<u>90</u>	100
自己評価結果と主な意見			
昨年から児童の回答が5%増加した、90%に達したことは大きな改善である。今年も「学校が楽しくない」という児童一人一人にその理由を担当が聞いた。その結果「好きなことができない」「めんどくさい」「なんとなく」「勉強がきらい」などが上がった。保護者からは安心して通わせられるという意見が複数あった。			
次年度の改善策			
「学校が楽しくない」と答えている児童には家庭と連携しながら、一人一人の児童の思いに寄り添って考えるとともに、一層教職員が協力して組織的に教育活動にあたる。			
2. 進んで学習していますか。 (学校はわかりやすい授業、楽しい授業に努めている。)	<u>92</u>	84	<u>100</u>
自己評価結果と主な意見			
多くの保護者は、丁寧な教育で工夫していると言ってくれた。			
次年度の改善策			
一人一人の教員がなお一層研修し、わかりやすい授業に努めるとともに、校内研究を核として学年がチームとなって共通実践できるようにしていく。			
3. 家庭で学年×10分の学習をしていますか。		76	
自己評価結果と主な意見			
昨年度の約8割から減少した。			
次年度の改善策			
家庭学習の内容を工夫していく。			
4. 友達のことを思いやり、親切にしていますか。 (学校は多様な関わりを通して、豊かな心の育成に努めている。)	<u>95</u>	<u>93</u>	87
自己評価結果と主な意見			
オリパラ教育や様々な方との交流、異学年交流を通して豊かな心の育成に努めた。保護者・児童とも高い評価である。お手伝い・ボランティア・異学年交流など評価してもらえた。			
次年度の改善策			
次年度も校内研究である道徳の授業やお手伝いやボランティアの継続、様々な人との関わりを通して豊かな心を育む努力をしていく。			

5. 進んで運動をしたり外で遊んだりして、体力を付けていますか。 (学校は運動や食育・健康教育を通して、体力向上のための取り組みに努めている。)	<u>95</u>	85	96
自己評価結果と主な意見			
食育朝会、体力向上への取り組み等行った。クラス遊びの奨励もよかった。なわとび・ペースランニング月間など体力向上の取り組みに対する評価があった。			
次年度の改善策			
日常的に外で遊ぶことの楽しさを体験させていく。また、外に出ることのメリットを児童にも家庭にも引き続き伝えていく。			
6. 進んであいさつをし、ありがとうを伝えていますか。		<u>90</u>	
自己評価結果と主な意見			
約9割の児童ができていると回答した。「進んで」のあいさつは十分でないというのが教員の評価である。			
次年度の改善策			
あいさつをすることの気持ちよさを体験させ、あいさつ運動も工夫していく。			
7. 進んで読書をしていますか。 (学校は読書の楽しさがわかる児童の育成に努めている。)	<u>91</u>	<u>83</u>	96
自己評価結果と主な意見			
年2回の読書月間・旬間、図書館等と連携し、読み聞かせ等取り組んだ。読書好きになったという保護者の声も上がった。			
次年度の改善策			
次年度も毎週水曜日の読書タイム、年3回の読書月間・旬間を中心に、読書に親しむ児童の育成に努める。			
8. 学校の決まりを守って学習・生活していますか。 (学校は大六スタンダードを指導し、その定着に努めている。)	<u>92</u>	81	<u>100</u>
自己評価結果と主な意見			
年度当初に全校一斉にVTRを使って指導している。保護者からは学習に関係ないものを持ってくる児童を指導したりしなかったりばらつきがあるという声があった。			
次年度の改善策			
今後も、学期毎にスタンダードを児童も教員も確認して実践に努める。何のためのスタンダードなのかその意義も併せて保護者にも理解を求める。			
9. お手伝いをしていますか。		78	
自己評価結果と主な意見			
今年度もお手伝いの推進を掲げて、年3回「お手伝い大作戦」週間を実施した。保護者からはよいことであるとの意見が複数あった。地域からも大切なことだと評価された。			
次年度の改善策			
次年度もお手伝いを推進し、人のために働く気持ちよさ、社会貢献意欲を培っていく。			
10. 悩みや困っていることを学校の誰かに相談していますか。 (学校は子供についての連絡・相談に適切に対応している。)	<u>90</u>	73	<u>100</u>
自己評価結果と主な意見			
何かあっても学校の誰かに相談できそうもないと答える児童が約3割いる。聞き取りをすると「友達に相談しているから」「家の人に相談しているから大丈夫」という回答があった。保護者からは丁寧に対応してもらっているという意見も複数あった。保護者からの肯定的評価は昨年から7%増加した。			
次年度の改善策			
年3回のふれあい月間を活用し、担任との全員面接、毎朝の専科教員の玄関でのあいさつ等児童理解に努め、相談しやすい雰囲気在今后もつくる。			

(学校は学校便り、学年便り、保健便り、給食便り、HP等で学校の様子を伝えている。)	97		100
自己評価結果と主な意見			
HPは4月から毎日の更新を続けた。保護者からは、毎日の更新を楽しみにしている、教育活動がわかるとの意見が多数あった。一番高い評価を受けた。			
次年度の改善策			
次年度も充実させていく。			
(学校は保護者・地域と連携して教育活動をしている。)	94		96
自己評価結果と主な意見			
地域での活動があつてよい、保護者・地域に開かれた学校だとの意見があつた。			
次年度の改善策			
今後も保護者・地域と連携して教育活動をするとともに、その内容を発信していく。			

2. 学校関係者評価

(1) 成果

- 決まりを守ってないと正直に答えるのはそれはそれでよい振り返りだと思う。
- 学校が楽しいと答えている児童が90%いるのは素晴らしい。
- 評価項目として学校の指針を示すのはとても大切。
- 児童がきちんと挨拶を返してくれるのがよかった。

(2) 課題

- 学校側の思いがもっと上手に保護者に伝わるとよい。(お手伝い・ボランティアなど)
- 学年×10分の学習をどうしたら動機づけられるか。
- 放課後広場のスタッフの言うことを聞かないことがあるが羽を伸ばす場も必要。
- 家に長くいたのにお手伝いをしている子が少なかったように思う。しかし、1年間同じお手伝いとなると78%の児童が続けていることは素晴らしい。

(3) 改善策

- 悩みや困っていることは「学校」の誰かでなくても「誰か」に相談できればよいのでは。
- お手伝いは家庭の協力も必要。
- 家庭学習の中身が大切。自分興味があることを見つけ伸ばすのは家庭の協力も必要。

3. 結果の公表・・・2/27学校便りで公開済み。HPにも掲載。

4. 次年度の改善に向けた校長の見解

- (1) 12月の保護者会で1年間の「教育活動報告書」を配布・説明してのアンケートを実施した。アンケート回収率は75%だった。次年度も教育活動をHPや学校だよりで積極的に発信して理解を得られるようにする。
- (2) どの項目も90%以上の肯定的評価を得られ、昨年よりどの項目もよく評価されたことが大きな成果であった。保護者の確かな信頼を得るためには、安定した学級経営が一番重要である。今後も児童とのコミュニケーションを図り、児童理解に努め、組織的に教育活動を行っていく。
- (3) 児童が進んで学習する力をつけることや、相談する力をつけることを工夫していく。